

---

# 伝えきれない、この気持ち

志崎 遥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

伝えきれない、この気持ち

### 【Zマーク】

Z4235P

### 【作者名】

志崎 遥

### 【あらすじ】

世の中には、いろいろなモノが存在するのです。

(前書き)

恋愛……かな？

突発的に書いていたら、よくわからないものが出来上がってしまい  
ました。

少々分かりづらいやもしだせません。

全ての始まりは私だったところの、元のうじて最後まで残ったのが、私なのでしょうか。

\* \* \*

伝えたいことがあるの。

一緒にいてくれてありがとうとか、迷惑かけてごめんねとか、言い出したら切りがないほどたくさんのことよ。

全部言こ終えるまでに、私はどれほどの時間を費やすのかしぃ。

あなたはいつも、口下手な私の話し相手をしてくれたわよね。

世間知らずな私に、あなたは嫌な顔一つせず、一いつ々丁寧に教えてくれたわ。

いいえ、嫌になったことは何度もあったでしょうね。だけれど、あなたは物分かりの悪い私に優しく接してくれた。

お母様も、お父様も、女中達も、誰一人いなくなってしまったとき、最後まで残つて私の相手をしてくれたのは、あなただったわ。皆が怖がるこの私を、きちんと受け止めようとしてくれたのは、あなただけだった。

最初は、あなただつて恐ろしいと感じたのでしょうか？ 別に隠さなくてもいいのよ、それが当然のことだもの。それとも、信じていなかつたのかしら。私の、“体質”については。

私ね、最初は少し、息苦しかったのよ。あなたがあまりに“普通に”接してくれるものだから、私は私が“普通”なんぢゃないかって、勘違いしそうになつたこともあつたわ。

けれど、その勘違いもそう長くは続かなかつたわね。初めて、私の“体質”を目の当たりにした、あなたの顔つたら！一生忘れられそうにないわ。

そのとき、私正直、すぐがっかりしたの。あなたが、他の人達と同じ顔をするんだもの。あなたも同様に、すぐにして行つてしまふのかと思つていたのよ。

だから、ねえ、次の日あなたが私の部屋へ平然とした顔で現れたときの、私の衝撃が分かる？

驚いて、どうしてここにいるの、と問いかけた私に、あなたは言ったわね。

「私はあなたの世話係なのだから、この部屋に来るのは当然だ」と。  
すじぐ、泣き声になつたの。あなたは氣づかなかつたようだけれどね。

でもやつぱり、楽しい時間というものは、その楽しさに比例して早く過ぎ去つていつてしまふものなのね。

“人間”には、寿命というものがある。そのことに、これほど怒りを覚えたことはないわ。

もうすぐ、あなたと出会い、別れた季節が来る。

初めて出逢つたあなたは、いくつ年上だつたかしら。とても背が高くて、幼心に、この人は巨人なのかしら、なんて思ったのを、今でも覚えていいるわ。

あなたがいなくなつて幾度季節を廻つたか……もう忘れてしまつたけれど、この城に訪れる人間はいなくなつたわ。それもそうでしょう、この国にはもう、人間というものが存在しないのだから。

あなたが亡くなつた後すぐ、この国で革命が起つたの。不老不死だとか言う、得体のしれない不気味な姫のいる王族に従いたくなつて、いつのまにか、当然のことよね。

お父様は必死に隠そつとしていたらしいけれど、悪い噂というものは案外、いろいろなところから漏れてしまつことだもの。

革命が済んでも、私は殺されなかつた。まあ、あちらとしては殺したかったのでしょうけど、当の本人でさえその方法を知り得ないのだから、それはいくらなんでも無理難題といつものね。

私はそのまま隔離されて、食事も与えられなかつたけれど、命は尽きなかつた。

統率者を失つた王国は、すぐに衰えていつたわ。隣国に攻められ、もはやこの地に残るものもいなくなつてしまつた。

どうして、私はこんな体に生まれてきてしまったのでしょうか。

私は、“普通の”女の子になりたかった。

あなたにふさわしい女性になりたかつただけなのよ。

この間、私と外界を隔てていた鉄格子が、ようやく朽ちてきたの。せめて、私と関わった方々だけでも、体は埋葬してあげたかったのだけれど、もう骨も残つていてるかどうか。

ああ、でも、どちらにしろ駄目みたいね。

最近、だんだん身体が動かしづらくなつてきたの。

私は、ようやく“人間”になれたといふことかしら。

嬉しい半面、少し戸惑いの方が大きいのよ。

私は、まだ償わなければいけないことがあるのではないかって。

それでも、もし、もしも許されるのなら、もう一度あなたに逢いたい。

ねえ、私、あなたに会えて本当に嬉しかったの。

だから……今度は、私から逢いに行つてもいいですか？

(後書き)

読んでくださってありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4235p/>

---

伝えきれない、この気持ち

2010年12月11日02時32分発行